

Citation: Cabello JB, Burls A, Emparanza JI, Bayliss S, Quinn T. Oxygen therapy for acute myocardial infarction. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2010, Issue 6. Art. No.: CD007160. DOI: 10.1002/14651858.CD007160.pub2.

CRG名: Cochrane Heart Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 27 February 2010

Clib issue No.; N/U: 2010 issue 6, New

背景: 酸素(O₂)は心筋梗塞の患者に広く推奨されているが、記述的レビューは有益性よりも有害性のほうが大きい可能性があることを示唆している。システマティック・レビューは、酸素が心筋虚血や梗塞サイズを減じるか、増大させるか、それとも無影響であるかを知るにはエビデンスが不十分であったと結論している。

目的: 急性心筋梗塞(AMI)における吸入酸素のルーチンの使用は患者本位のアウトカム、特に疼痛や死亡を改善するか否かを確定するため、ランダム化比較試験からのエビデンスをレビューする。

検索戦略: 以下の文献目録データベースを検索した(2010年2月末まで): Cochrane Central Register of Controlled Trials (CENTRAL) (コクラン・ライブラリ)、MEDLINE、MEDLINE In-Process、EMBASE、CINAHL、LILACS、PASCAL、British Library ZETOC、Web of Science ISI Proceedings。あらゆる研究を同定するために専門家にも連絡を取った。言語制限は用いなかった。

選択基準: 発症後24時間未満のAMIが疑われるか証明された人を対象とし、介入が大気と比較した吸入酸素(正常圧)であるランダム化比較試験で、試験の両群で同じであるなら併用治療の内容は問わなかった。

データ収集と分析: 2人のレビューアが独自に同定された研究の標題と抄録をレビューして選択基準に合致しているか否かを検討し、独自にデータ抽出を行った。研究の質とバイアスのリスクをCochrane Handbookのガイダンスに従って評価した。主要アウトカムは死亡、疼痛、または合併症であった。用いた効果の指標は相対リスク(RR)であった。

主な結果: 387例の患者が参加した3件の研究を選択し、14例の死亡例があった。死亡のプールしたRRはITT解析で2.88(95%CI 0.88~9.36)、AMIが確定された患者において3.03(95%CI 0.93~9.83)であった。有害性が示唆されたが、記録された死亡数が少数であったことはこれが偶発的な出来事である可能性があることを意味している。疼痛は鎮痛剤使用により評価した。鎮痛剤使用に対するプールしたRRは0.97(95%CI 0.78~1.20)であった。

レビューアの結論: 急性AMIの患者における吸入酸素のルーチンの使用を支持するランダム化比較試験から決定的エビデンスは得られていない。ルーチンの酸素使用が有害である可能性があることを示唆する試験のエビデンスと診療ガイドラインにおける使用の勧告とが一致しないことを考慮すると、より決定的なランダム化比較試験が早急に求められる。

(監訳 澤村 匡史)
翻訳公開日: 2011年3月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。